

YAESU
The radio

PCC-1200

オペレーションマニュアル

PCC (Personal Computer Control) -1200 は、FTDX1200 シリーズを Personal Computer 上でコントロールするソフトウェアです。

目次

最初にお読みください.....	3	IPO(Intercept Point Optimization) の設定 ...	15
使用上のご注意.....	3	ATT (Attenuator) の設定.....	15
PCC-1200 を使用するために必要な環境.....	3	ルーフingフィルターの設定.....	15
接続方法.....	4	ノイズブランカーの設定.....	16
USB ケーブルで接続する場合.....	4	AGC の設定.....	16
RS-232C(シリアル)ケーブルで		μ -TUNE の設定.....	17
接続する場合.....	4	IF SHIFT の設定.....	17
PCC-1200 ソフトウェアのインストール.....	5	WIDTH の設定.....	18
PCC-1200 ソフトウェアのアンインストール... 5		ナロー (NAR) の設定.....	18
パソコンの通信ポート COM 端子番号の設定.....	5	DNR(デジタルノイズリダクション)の設定	18
通信速度 “Baud rate” の設定.....	6	DNF (AUTO NOTCH) の設定.....	19
画面の説明.....	7	NOTCH の設定.....	19
操作方法.....	8	CONTOUR/APF の設定.....	20
PCC-1200 コントローラ画面.....	8	CONTOUR.....	20
PCC-1200 コントローラ画面の表示.....	8	APF (Audio Peak Filter)	21
PCC-1200 コントローラ画面の終了.....	8	MIC GAIN の設定.....	22
PCC-1200 コントローラー		MOX 操作.....	22
画面サイズの変更.....	8	VOX の設定.....	23
バージョンの確認.....	8	スピーチプロセッサの設定.....	23
PCC-1200 コントローラの回線接続.....	9	送信出力調整.....	24
電源の ON/OFF.....	9	オートアンテナチューナーの設定.....	24
音量の調整.....	9	ボイスメモリー機能.....	25
RF GAIN の設定.....	10	録音操作.....	25
スケルチの調整.....	10	録音内容の確認 (再生) 操作.....	26
Main VFO-A の周波数設定.....	11	送信操作.....	27
MAIN ダイアルツマミによる周波数設定.....	11	プレイバック機能.....	28
周波数ダイレクト操作による周波数設定.....	11	録音操作.....	28
運用バンドの設定.....	11	再生操作.....	29
テンキー入力による周波数設定.....	12	モニター機能の設定.....	29
1MHz/100kHz アップダウンによる		3ステージパラメトリック	
周波数設定.....	12	マイクイコライザー機能の調整.....	30
[MAIN ダイアル] ツマミのロック設定.....	13	Prmtrc/P-Prmtrc ポップアップウインドウ ...	32
運用モード選択.....	13	エレクトロニックキーヤー設定.....	33
クラリファイアの設定.....	14	コンテストメモリーキーヤー設定.....	34
RX CLAR ボタン.....	14	TEXT メモリーの書き込み.....	34
TX CLAR ボタン.....	14	TEXT メモリーの内容を確認.....	35
CLEAR ボタン.....	14	TEXT メモリーの送付.....	36
CLAR ツマミ.....	14	レピータ運用 (FM モード).....	37
アンテナ端子の切り換え.....	15	ローテーターのコントロール.....	38

QMB メモリー	38
各種ボタンとスイッチの操作	39
機能表示ディスプレイの [METER] ボタン ...	39
機能表示ディスプレイの [SPOT] ボタン	39
[A ←→ B] ボタン	39
[A → B] ボタン	39
[TXW] ボタン	39
[SPLIT] ボタン	39
[V/M] ボタン	40
[M → A] ボタン	40
[A → M] ボタン	40
メインダイアルの [FAST] ボタン	40
[MCH/GRP] ボタン	40
メニューモードの設定	41
CAT コマンドによる設定	42
ファンクションキーの使い方	42
キーボードショートカットエディタ	43
キーボードショートカットエディタの使い方 ...	43
キーボードショートカットエディタの起動 ...	43
“COM Port”、“Baud rate” の設定	44
ファンクションキーに	
CAT コマンドを設定	44
CAT コマンドに Tag (タグ) を	
入力して表示	45
ファンクションキーをクリックして	
CAT コマンドを送出	46
コマンドをコピーして貼り付ける	46
ファンクションキーに設定した	
CAT コマンドを保存	47
保存したデータを読み出す	47
キーボードショートカットエディタの終了 ...	47
バージョンの確認	47

最初にお読みください

使用上のご注意

このソフトウェアおよびマニュアルの著作権は、八重洲無線株式会社にあります。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製または譲渡することは禁じられています。

八重洲無線株式会社は、このソフトウェアおよびマニュアルの内容に関し、特許権、特許を受ける権利、著作権、商標権、実用新案権、意匠権またはその他の権利を有する場合があります。八重洲無線株式会社は、これらの権利をお客様に譲渡または許諾するものではありません。

このソフトウェアおよびハードウェアの仕様、機能、内容、およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。

八重洲無線株式会社は、八重洲無線株式会社の登録商標です。また、記載されている会社名は、各社の商標または登録商標です。

警告: このプログラムは、著作権法および国際条約によって保護されています。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製または譲渡することは禁じられています。

PCC-1200 を使用するために必要な環境

- ☐ USB 端子または RS-232C 端子のあるパソコン
- ☐ 対応するオペレーティング・システム
 - Microsoft® Windows® XP (Service Pack 3 以降)
 - Microsoft® Windows Vista® 32bit および 64bit (Service Pack 1 以降)
 - Microsoft® Windows® 7 32bit および 64bit
 - Microsoft® Windows® 8 および 8.1
- ☐ ソフトウェアインストール用に 30MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- ☐ それぞれのオペレーティング・システムで推奨されている容量以上のメモリー
- ☐ 1024 × 768 の画面解像度 (XGA)、256 色以上をサポートするビデオカードとディスプレイを推奨

接続方法

USB ケーブルで接続する場合（オプションの SCU-17 が必要です）

オプションの USB インターフェイスユニット SCU-17 を使用することで、FTDX1200 背面にある CAT 端子と、パソコンの USB 端子を、USB ケーブルで接続することができます。

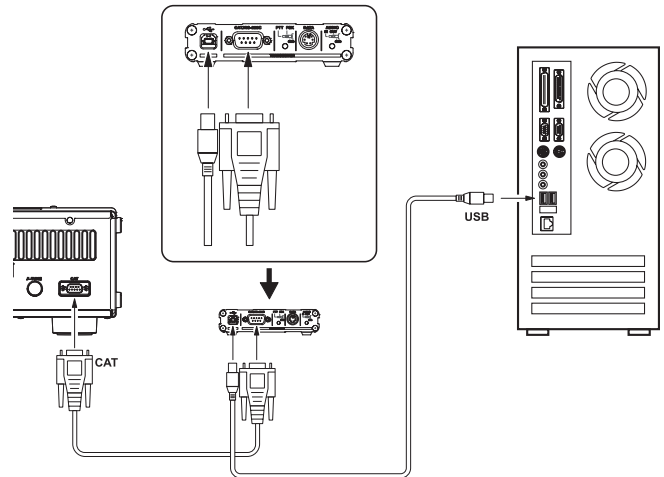
ご注意

SCU-17 を使用するには、パソコンに仮想 COM ポートドライバーをインストールする必要があります。

仮想 COM ポートドライバーのインストールが完了するまでは、SCU-17 とパソコンとを USB ケーブルで接続しないで下さい。

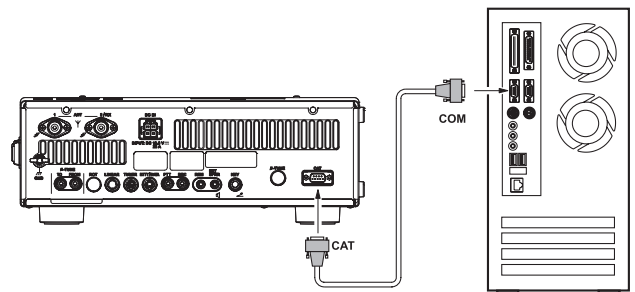
インストールを行わないで SCU-17 とパソコンを USB ケーブルで接続した場合、誤ったドライバーがインストールされて正しく動作しなくなる恐れがあります。

USB ドライバーに関しては当社ホームページ、カスタマーサポートのドライバーダウンロードページ http://www.yaesu.com/jp/amateur_index/driver/GetStart.html をご覧ください。



RS-232C（シリアル）ケーブルで接続する場合

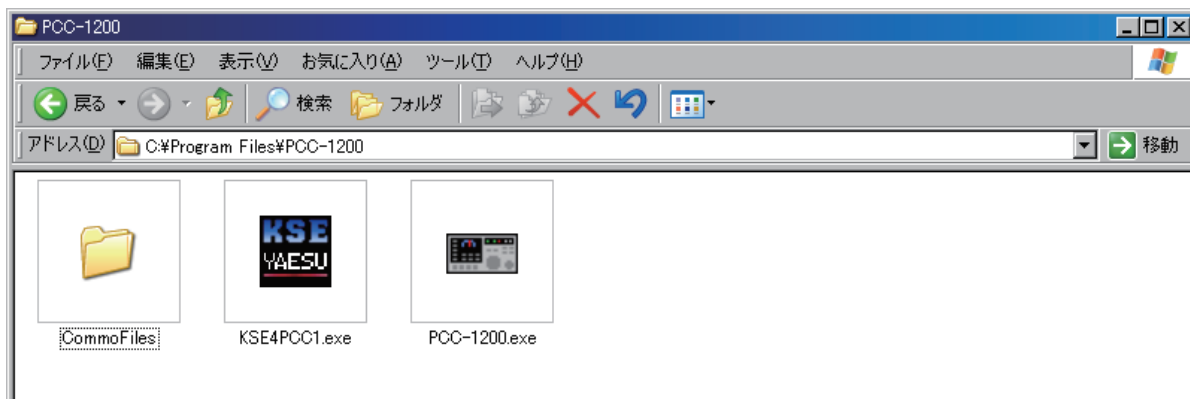
右図を参考にして、FTDX1200 の背面にある CAT 端子とパソコンの COM 端子を、市販の RS-232C ストレート・ケーブルで接続することで、RS-232C による通信を行うことができます。



PCC-1200 ソフトウェアのインストール

PCC-1200 フォルダをハードディスクの C ドライブにコピーしてください。

PCC-1200 フォルダの中には、CommoFiles フォルダ、KSE4PCC1.exe、PCC-1200.exe のファイルがあります。



PCC-1200 ソフトウェアのアンインストール

PCC-1200 のフォルダごと、ゴミ箱に移動してください。

パソコンの通信ポート COM 端子番号の設定

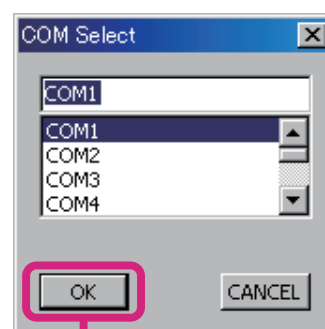
ご注意

COM 端子番号の設定は、USB ケーブルまたは RS-232C ケーブルのどちらで接続した場合でも必要です。

1. メニューバーの「Setup」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「COM Select」をマウスの左ボタンでクリックすると、「COM Select」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. FTDX1200 を接続した COM 端子をマウスかキーボードの [↑]、[↓] で選択し、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、COM 端子が設定されポップアップウィンドウが閉じます。
 - ☐ USB ケーブルで接続した場合には 2 つの仮想 COM ポートが現れますので、“Enhanced COM Port”と表示されている COM 番号を選択します。コントロールパネルからシステムを選択、デバイスマネージャを開いて、COM ポート番号を確認してください。
 - ☐ RS-232C ケーブルで接続した場合には接続した COM 端子の番号を選択します。
 - ☐ [CANCEL] ボタンをクリックすると COM 端子番号は変更されずに終了してポップアップウィンドウが閉じます。
3. PCC-1200 コントローラ画面を一度閉じ、PCC-1200 コントローラ画面を再起動してください。



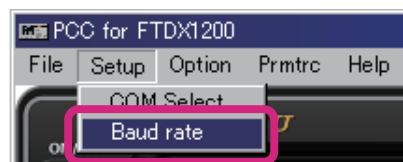
COM Selectをクリックする



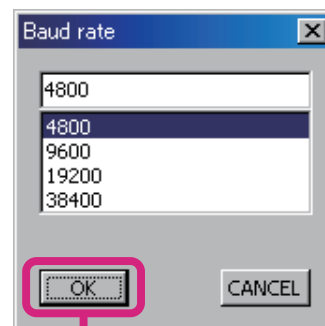
[OK]をクリックする

通信速度 “Baud rate” の設定

1. メニューバーの「Setup」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Baud rate」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Baud rate」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Baud rate を選択し [OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、Baud rate が設定されポップアップウィンドウが閉じます。
 - ❑ 初期設定は 4800bps に な っ て い ま す が、マウスかキーボードの[↑]、[↓]で 9600bps/19200bps/38400bps に設定することができます。
 - ❑ PCC-1200 ではできるだけ速い通信速度に設定してお使いいただくことをお勧めします。速い通信速度で動作が不安定な場合には通信速度を下げることで改善する場合があります。
 - ❑ PCC-1200 の通信速度を変更した場合は、FTDX1200 本体側のメニューモード「039 CAT RATE」も同じ通信速度に設定してください。
 - ❑ [CANCEL] ボタンをクリックすると通信速度は変更されずに終了してポップアップウィンドウが閉じます。
3. PCC-1200 コントローラ画面を一度閉じ、PCC-1200 コントローラ画面を再起動してください。



Baud rateをクリックする



[OK]をクリックする

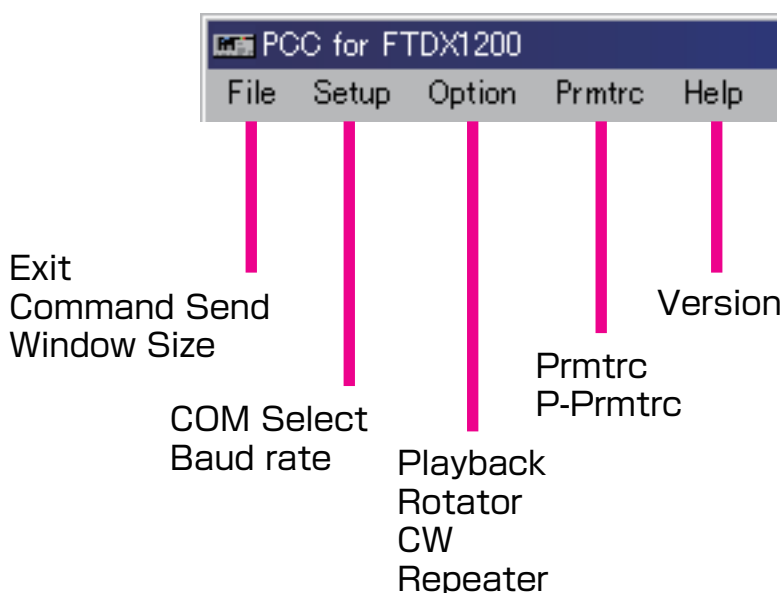
画面の説明

PCC-1200 のソフトウェアをインストールして、“PCC-1200.exe” をダブルクリックすると、下記の PCC-1200 コントローラ画面が開きます。

なお、この「PCC-1200 オペレーションマニュアル」はおもに PCC-1200 の操作方法を記載しておりますので、機能等の詳細は「FTDX1200 シリーズのオペレーションマニュアル」を参照してください。



PCC-1200 では [SCOPE]、[AUTO]、[SELECT]、[▲]、[▼]、[◀]、[▶] ボタンは使用できません。
また、スペクトラムスコープを表示させることはできません。



操作方法

PCC-1200 コントローラ画面

PCC-1200 コントローラ画面の表示

PCC-1200 フォルダ内にある“PCC-1200.exe”を起動します。

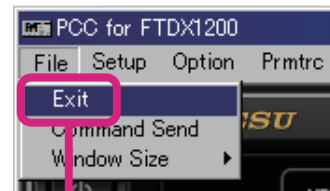
“YAESU” ロゴが約2秒間表示され、その後 PCC-1200 コントローラ画面が開きます。

PCC-1200 コントローラ画面の終了

PCC-1200 コントローラ画面を閉じる方法は、下記の3種類があります。

- PCC-1200 コントローラ画面の右上の“閉じる (×)” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
- メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Exit」をマウスの左ボタンでクリックします。
- パソコンの [ESC] キーを押します。

閉じる(×)をクリックする

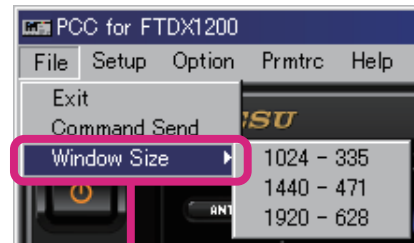


Exitをクリックする

PCC-1200 コントローラ画面サイズの変更

PCC-1200 コントローラ画面の表示サイズを変更することができます。

1. メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックします。
2. 「Window Size」をマウスの左ボタンでクリックすると、画面サイズ選択のポップアップウィンドウが開きます。
3. 希望の画面サイズを選択します。



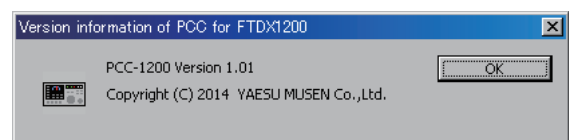
Window Sizeをクリックする

バージョンの確認

1. メニューバーの「Help」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Version」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Version information of PCC for FTDX1200」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. バージョンを確認後、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ポップアップウィンドウを閉じられます。



Versionをクリックする



PCC-1200 コントローラの回線接続

1. [COM] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ボタン内のインジケータが黄色に点灯し、PCC-1200 コントローラで FTDX1200 を操作することができるようになります。
2. もう一度 [COM] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると黄色のインジケータは消灯し、PCC-1200 コントローラと FTDX1200 の回線は切断し、操作することができなくなります。



アドバイス

[COM] ボタンのインジケータが消灯した状態でも、PCC-1200 コントローラの [電源] ボタン ([ON/OFF] ボタン) の操作だけは行うことができます。

電源の ON/OFF

[電源] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、FTDX1200 の電源を ON にすることができます。FTDX1200 の電源が ON の場合には電源ボタンのインジケータがオレンジ色に点灯します。もう一度 [電源] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、FTDX1200 の電源を OFF にすることができます。



音量の調整

受信音量を調節するツマミです。

[AF] ツマミ(内軸)をマウスの左ボタンでクリックします(パネル部分の AF 文字が白色からオレンジ色に変わります)。調節の方法は、下記の 2 種類があります。

- ☐ [AF] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにすると音量が下がります。
また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると音量が上がります。
- ☐ [AF] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて受信音量を設定します。
ホイールを上方向にまわすと音量が上がります。
また、下方向にまわすと音量が下がります。



AFツマミ

RF GAIN の設定

受信部高周波増幅段および中間周波増幅段の利得を調節するツマミです。

メニューモード「038 RF/SQL VR」を“RF”（RF ツマミ）に設定しているときは、RF GAIN 調整ツマミとして動作します。

[RF/SQL] ツマミ（外軸）をマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の RF の文字が白色からオレンジ色に変わります）。

調節の方法は、下記の 2 種類があります。

- ☐ [RF/SQL] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにすると利得が下がっていきます。
また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると利得が上がっていきます。
- ☐ [RF/SQL] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて利得を設定します。
ホイールを上方向にまわすと利得が上がっていきます。
また、下方向にまわすと利得が下がっていきます。



RFツマミ

スケルチの調整

スケルチを調節するツマミです。

メニューモード「038 RF/SQL VR」を“SQL”（SQL ツマミ）に設定しているときは、スケルチ調整ツマミとして動作します。

[RF/SQL] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の SQL の文字が白色からオレンジ色に変わります）。

調節の方法は、下記の 2 種類があります。

- ☐ [RF/SQL] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが下がっていきます。
また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが上がっていきます。
- ☐ [RF/SQL] ツマミの上でマウスのホイールを回転させてレベルを設定します。
ホイールを上方向にまわすとスケルチのレベルが上がっていきます。
また、下方向にまわすとスケルチのレベルが下がっていきます。



SQLツマミ

Main VFO-A の周波数設定

MAIN ダイアルツマミによる周波数設定

設定の方法は、下記の 2 種類があります。

- [MAIN ダイアル] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと周波数が低くなります。
また、同様に右回りにまわすと周波数が高くなります。
- [MAIN ダイアル] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて周波数を設定します。
ホイールを下方方向にまわすと周波数が低くなります。
また、上方方向にまわすと周波数が高くなります。



MAINダイアルツマミ

周波数ダイレクト操作による周波数設定

変更したい周波数表示部の数字を直接アップ／ダウンして周波数を変更することができます。

1. 変更したい周波数表示の数字をマウスの左ボタンでクリックします（数字が白色からオレンジ色にかわります）。
2. マウスのホイールを回転し周波数を設定します。
ホイールを上方向にまわすと数字が大きくなり、また、下方向にまわすと数字が小さくなります。
3. マウスの左ボタンをクリックすると、数字が白色に戻り入力が終了になります。



周波数ダイレクト操作(例:10kHz桁)

運用バンドの設定

[1.8] から [50]、[GEN] の各 [BAND] キーをマウスの左ボタンでクリックすると運用バンドを切り換えることができます。



テンキー入力による周波数設定

1. [ENT] キーをマウスの左ボタンでクリックすると、周波数ダイレクト入力モードになります。
2. VFO SET のポップアップウィンドウが表示され、パソコンのキーボードから直接周波数を入力することができます。

入力が可能な範囲は 30kHz ~ 56MHz です。

30kHz を入力する場合は 30000

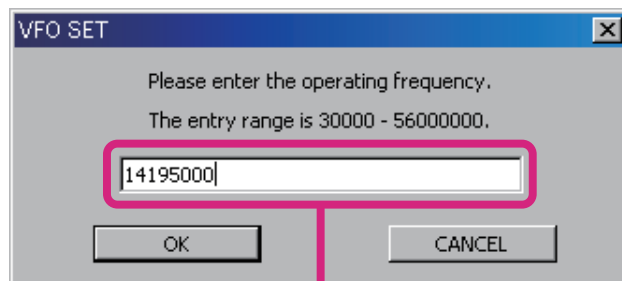
56MHz を入力する場合は 56000000

と入力します。

3. ポップアップウィンドウの [OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、周波数が変更されてポップアップウィンドウが消えます。
[CANCEL] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、周波数は変更されずにポップアップウィンドウが消えます。



ENTキー



周波数入力部

1MHz/100kHz アップダウンによる周波数設定

1. [MHz/ μ T] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“MHz/ μ T”のポップアップウィンドウが開きます。
2. MHz を選択します。
3. [VFO-B/CLAR] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、周波数を 1MHz ステップで可変することができます。

アドバイス

メニューモード「158 1MHz/100kHz SELECT」の設定を“100kHz”にすると 100kHz ステップで可変することができます。

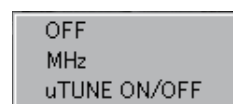
ご注意

FTDX1200 に RF μ -Tuning Kit を接続しているときには [MHz/ μ T] ボタンは μ -TUNE 専用になりますので、“MHz”を選択しても動作しません。



VFO-B/CLARツマミ

MHz/ μ Tボタン

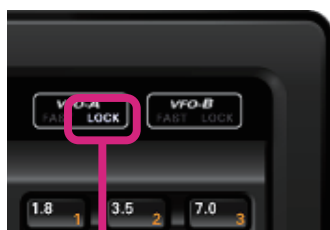


MHz/ μ TUNEポップアップウィンドウ

[MAIN ダイヤル] ツマミのロック設定

[MAIN ダイヤル] ツマミ右下の [LOCK] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックすると、LED インジケータ表示部に“LOCK”が表示され、[MAIN ダイヤル] ツマミをロックすることができます。

もう一度 [LOCK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、[MAIN ダイヤル] ツマミのロックが解除されます。



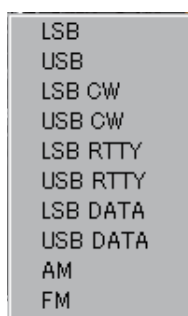
LOCK表示



LOCKボタン

運用モード選択

1. [MODE] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“MODE”のポップアップウィンドウが開きます。
2. 設定したい電波形式を選択します。



MODEポップアップウィンドウ



MODEボタン

クラリファイアの設定

ご注意

クラリファイア周波数を変更する時は、必ず [MHz/ μ T]、[MCH/GRP] ボタンの設定が “OFF” になっていることを確認してください。

RX CLAR ボタン

[RX CLAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、受信用クラリファイアが “ON” になり、[VFO-B/CLAR] ツマミによって受信周波数を一時的に変更することができます。

もう一度 [RX CLAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、受信用クラリファイアは “OFF” になります。

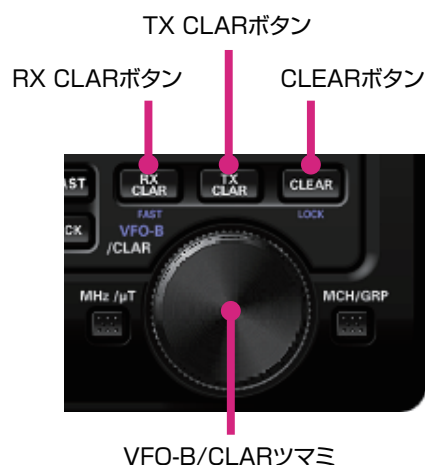
TX CLAR ボタン

[TX CLAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、送信用クラリファイアが “ON” になり、[VFO-B/CLAR] ツマミによって送信周波数を一時的に変更することができます。

もう一度 [TX CLAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、送信用クラリファイアは “OFF” になります。

CLEAR ボタン

[CLEAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、[VFO-B/CLAR] ツマミにより設定したクラリファイアのシフト周波数(オフセット量)が “ゼロ” にリセットされます。



CLAR ツマミ

変更の方法は、下記の 2 種類があります。

- ☐ [VFO-B/CLAR] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと、周波数が低くなります。
また、右回りにまわすと周波数が高くなります。
- ☐ [VFO-B/CLAR] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて周波数を設定します。
ホイールを下方向にまわすと周波数が低くなり、また上方向にまわすと周波数が高くなります。

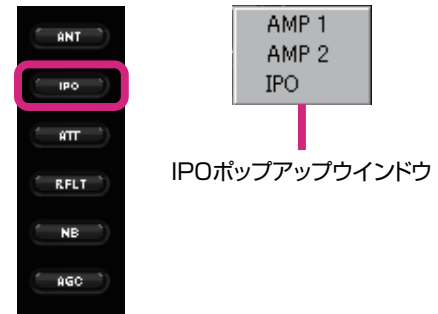
アンテナ端子の切り換え

1. [ANT] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“ANT” のポップアップウィンドウが開きます。
2. 設定したいアンテナ端子を選択します。
ブロックダイアグラムディスプレイに“ANT” の選択状態が表示されます。



IPO (Intercept Point Optimization) の設定

1. [IPO] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“IPO” のポップアップウィンドウが開きます。
2. フロントエンドの設定を選択します。
AMP1: 約 10dB の利得 RF アンプ
AMP2: 約 20dB の高利得 RF アンプ
IPO: RF アンプ 1 段とアッテネータを組み合わせ、1st IF ミキサーへ適切なレベルの信号を入力します。
ブロックダイアグラムディスプレイに“IPO” の選択状態が表示されます。



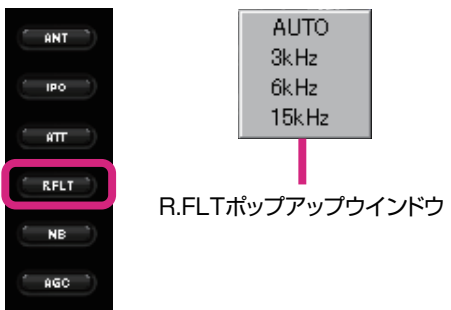
ATT (Attenuator) の設定

1. [ATT] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“ATT” のポップアップウィンドウが開きます。
2. 次に、設定したいアッテネータを選択します。
ブロックダイアグラムディスプレイに“ATT” の選択状態が表示されます。



ルーフィングフィルターの設定

1. [R.FLT] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“R.FLT” のポップアップウィンドウが開きます。
2. 設定したいルーフィングフィルターを選択します。
ブロックダイアグラムディスプレイに“R.FLT” の選択状態が表示されます。



ノイズブランカーの設定

1. [NB] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“NB”のポップアップウィンドウが開きます。
2. 設定したいノイズブランカーの動作を選択します。
ブロックダイアグラムディスプレイに“NB”の選択状態が表示されます。

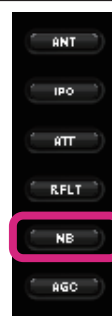
NB OFF: NB の機能を OFF にします。

NB ON: NB の機能を ON にします。

“パルス性雑音”に効果があります。

NB-W ON: NB-W の機能を ON にします。

“幅の広い雑音”に効果があります。



NB OFF
NB ON
NBW ON

NBポップアップウィンドウ

アドバイス

- メニューモード「034 NB LEVEL」で、ノイズブランカーレベルを調整することができます。

AGC の設定

1. [AGC] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“AGC”のポップアップウィンドウが開きます。
2. 設定したいAGCの時定数を選択します。
ブロックダイアグラムディスプレイのAGCの設定状態が表示されます。

アドバイス

AUTO 以外を設定しているときは緑色の文字で表示されます。通常は AGC AUTO に設定しておきます。AGC AUTO に設定しているときは青色の文字で表示されます。



AGC OFF
AGC AUTO
AGC FAST
AGC MID
AGC SLOW

AGCポップアップウィンドウ

μ-TUNE の設定

ご注意

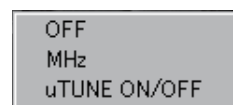
オプションの RF μ-Tuning Kit の接続が必要です。

1. [MHz/ μ T] ボタンをマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが開きます。
2. “μ TUNE ON/OFF” を選択します。
3. μ-TUNE の同調周波数を手動で調整したい場合は、[VFO-B/CLAR] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと、μ-TUNE 同調周波数が低い方に変化します。
また、右回りにまわすと μ-TUNE の同調周波数が高い方に変化します。
手動の調整を解除するには、[CLEAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、受信周波数付近に自動で同調しなおします。
4. μ-TUNE を解除するには、[MHz/ μ T] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし、“μ TUNE ON/OFF” をもう一度選択します。



VFO-B/CLARツマミ

MHz/μTボタン



MHz/μTUNEポップアップウィンドウ

アドバイス

- メニューモード「011 BAR DISPLAY SELECT」の設定を“μ TUNE”にすると、バーグラフ表示部に μ TUNE のチューニング位置を表示します。
- FTDX1200 に RF μ-Tuning Kit を接続しているときには [MHz/ μ T] ボタンは μ-TUNE の操作専用になりますので、ポップアップメニューの“MHz”は動作しません。

IF SHIFT の設定

1. [SHIFT] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の SHIFT 文字が白色からオレンジ色に変わります）。DSP グラフィックディスプレイにシフト方向が表示されます。
2. 設定の方法は、下記の 2 種類があります。
 - ☐ [SHIFT] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにすると、シフトが周波数の低い方へ変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、シフトが周波数の高い方へ変化します。
 - ☐ [SHIFT] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて SHIFT を設定します。ホイールを下方方向にまわすと、シフトが周波数の低い方へ変化します。また上方方向にまわすと、シフトが周波数の高い方へ変化します。



SHIFTツマミ

WIDTH の設定

1. [WIDTH] (外軸) ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の WIDTH 文字が白色からオレンジ色に変わります)。
DSP グラフィックディスプレイに IF フィルターの通過帯域幅が表示されます。



WIDTHツマミ

2. 設定の方法は、下記の 2 種類があります。
 - [WIDTH] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにすると通過帯域幅が狭い方へ変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると通過帯域幅が広い方へ変化します。
 - [WIDTH] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて WIDTH を設定します。ホイールを下方方向にまわすと [WIDTH] ツマミの左回りになり帯域幅が狭い方へ変化します。また上方方向にまわすと、帯域幅が広い方へ変化します。

ナロー (NAR) の設定

1. [NAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、瞬時に通過帯域幅を狭くすることができます。通過帯域幅の詳細は FTDX1200 シリーズのオペレーションマニュアルをご覧ください。ナロー状態で [WIDTH] ツマミを回すとさらに通過帯域幅を狭くすることができます。
2. もう一度 [NAR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ナローは解除されます。

NARボタン



DNR (デジタルノイズリダクション) の設定

1. 機能表示ディスプレイに表示されている [DNR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックして DNR を “ON” にします。
2. もう一度 [DNR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると DNR を “OFF” にすることができます。

アドバイス

メニューモード「110 DNR LEVEL」でノイズの種類によってパラメータを 15 段階に可変することができます。



DNRボタン

DNF (AUTO NOTCH) の設定

1. 機能表示ディスプレイに表示されている [DNF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックして DNF を “ON” にします。
2. もう一度 [DNF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると DNF を “OFF” にすることができます。



DNFボタン

NOTCH の設定

1. [NOTCH] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
グラフィックディスプレイに NOTCH の減衰部分が表示されます。
2. [NOTCH] (内軸) ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の NOTCH 文字が白色からオレンジ色に変わります)。

調整の方法は、下記の 2 種類があります。

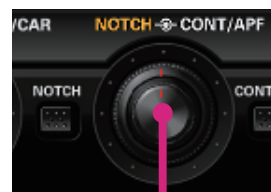
- ☐ [NOTCH] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにすると、中心周波数が低い方へ変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、中心周波数が高い方へ変化します。
- ☐ [NOTCH] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて NOTCH を設定します。ホイールを上方向にまわすと、中心周波数が高い方へ変化します。また下方向にまわすと中心周波数が低い方へ変化します

3. NOTCH を解除したい場合は、[NOTCH] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

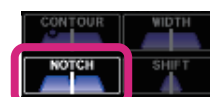
NOTCH 回路の動作が “OFF” になります。

アドバイス

メニューモード「111 IF NOTCH WIDTH」でノッチの減衰帯域特性（幅）を NARROW と WIDE から選択することができます。



NOTCHツマミ



NOTCH動作表示

CONTOUR

1. [CONT/APF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

DSP グラフィックディスプレイに CONTOUR が表示されます。

なお、CW モードの場合はクリックするたびに、OFF → APF → CONTOUR → OFF → . . . と変化します。(APF についての説明は次項の APF を参照してください。)

2. [CONT/APF] ツマミ (外軸) をマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の CONT 文字が白色からオレンジ色に変わります)。

設定の方法は、下記の 2 種類があります。

☐ [CONT/APF] ツマミ (外軸) の上でマウスの右ボタンをクリックしたままにすると CONTOUR の中心周波数が高い方へ変化します。また、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると、CONTOUR の中心周波数が低い方へ変化します。

☐ [CONT/APF] ツマミ (外軸) の上でマウスのホイールを回転させて CONTOUR の中心周波数を設定します。ホイールを下方方向にまわすと CONTOUR の中心周波数が低い方へ変化します。また上方方向にまわすと CONTOUR の中心周波数が高い方へ変化します。

3. CONTOUR を解除したい場合は、[CONT/APF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしてください。

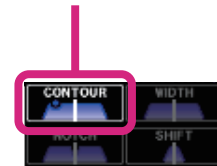
アドバイス

- メニューモード「108 CONTOUR LEVEL」で CONTOUR のゲインを設定することができます。
- メニューモード「109 CONTOUR WIDTH」で CONTOUR の帯域幅 (Q) を設定することができます。



CONT/APFボタン
CONT/APFツマミ

CONTOUR動作表示



APF (Audio Peak Filter)

ご注意

CW モード時のみ APF を選択することができます。

1. [CONT/APF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

DSP グラフィックディスプレイに APF が表示されます。クリックするたびに、OFF → CONTOUR → APF → OFF → . . . と変化します。

2. [CONT/APF] ツマミ（外軸）をマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の APF 文字が白色からオレンジ色に変わります）。

設定の方法は、下記の 2 種類があります。

□ [CONT/APF] ツマミ（外軸）の上でマウスの右ボタンをクリックしたままにすると、APF の中心周波数が高い方へ変化します。また、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると APF の中心周波数が低い方へ変化します。

□ [CONT/APF] ツマミ（外軸）の上でマウスのホイールを回転させて APF の中心周波数を設定します。ホイールを下方向にまわすと APF の中心周波数が低い方へ変化します。また上方向にまわすと APF の中心周波数が高い方へ変化します。

3. APF を解除したい場合は、[CONT/APF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしてください。

アドバイス

メニューモード「107 APF WIDTH」で、APF の帯域幅を 3 段階の中から選択することができます。



CONT/APFボタン

CONT/APFツマミ

APF動作表示



MIC GAIN の設定

アドバイス

[MIC/SPEED] ツマミは LSB/USB/AM*/FM*/DATA モードの時は MIC GAIN を調整するツマミとして動作します。（*AM/FM モードの MIC GAIN はメニューモード「054 AM MIC GAIN」/「085 FM MIC GAIN」が、「MCVR」に設定している場合に [MIC/SPEED] ツマミで調整することができます。）

[MIC/SPEED] ツマミ（内軸）をマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の MIC 文字が白色からオレンジ色に変わります）。

設定の方法は、下記の 2 種類があります。

- [MIC/SPEED] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると、マイクゲインが下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、マイクゲインが上がります。
- [MIC/SPEED] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて MIC レベルを調整します。ホイールを上方向にまわすと [MIC/SPEED] ツマミの右回りになりマイクゲインが上がります。また下方向にまわすと [MIC/SPEED] ツマミの左回りになりマイクゲインが下がります。



MIC/SPEEDツマミ

アドバイス

CW モード時には [MIC/SPEED] ツマミは内蔵エレクトロニックキーヤーのキーイング速度を調整するツマミとして動作します。

（詳しくは 33 ページページ、エレクトロニックキーヤー設定を参照してください。）

MOX 操作

1. [MOX] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると送信状態になります。
同時に、メーター表示部分に MOX インジケータが表示されます。
2. もう一度 [MOX] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると受信状態に戻ります。



MOXボタン

MOXインジケータ



VOX の設定

1. 機能表示ディスプレイに表示されている [VOX] ボタンをマウスの左ボタンでクリックして VOX を“ON”にします。
音声入力によって自動的に送信状態になります。
2. もう一度 [VOX] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると VOX を“OFF”にすることができます。

アドバイス

- メニューモード「181 VOX GAIN」で、VOX の動作感を調整することができます。
- メニューモード「182 VOX DELAY」で、VOX の送信状態保持時間を調整することができます。

VOXインジケータ



VOXボタン

スピーチプロセッサの設定

ご注意

[PROC/CAR] ツマミは、工場出荷時には送信出力を調整するツマミとして動作します。コンプレッションレベルを調節する際は、あらかじめメニューモード「177 TX PWR CONTROL」の設定を、“PROC”に設定してください。

1. 機能表示ディスプレイに表示されている [PROC] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしてスピーチプロセッサを“ON”にします。
2. [PROC/CAR] ツマミ（外軸）をマウスの左ボタンでクリックし、コンプレッションレベルを調節します。
設定の方法は、下記の2種類があります。

- ☐ [PROC/CAR] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにすると、コンプレッションレベルが下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、コンプレッションレベルが上がります。
- ☐ [PROC/CAR] ツマミの上でマウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすとコンプレッションレベルが上がります。また下方向にまわすとコンプレッションレベルが下がります。

アドバイス

- スピーチプロセッサは、送信信号の平均電力を増加させることによってトークパワーを上げ、相手局側の了解度を上げるための機能です。
- スピーチプロセッサ専用のパラメトリックマイクイコライザーを搭載しておりますので、スピーチプロセッサ“ON”時に送信音質を独立して調整することができます。（詳しくは 30 ページページの3ステージパラメトリックマイクイコライザー機能の調整を参照してください。）

PROCインジケータ



VOXボタン



PROC/CARツマミ

送信出力調整

ご注意

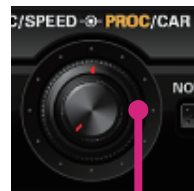
メニューモード「177 TX PWR CONTROL」の設定が“PROC”に設定されている場合、SSBモード時は[PROC/CAR] ツマミは、コンプレッションレベルを調整するツマミとして動作します。

送信出力を調節する際は、あらかじめメニューモード「177 TX PWR CONTROL」の設定を、“TX PWR”に設定してください。

[PROC/CAR] ツマミ（外軸）をマウスの左ボタンでクリックします。

設定の方法は、下記の2種類があります。

- [PROC/CAR] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにすると、送信出力が下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、送信出力が上がります。
- [PROC/CAR] ツマミの上でマウスのホイールを回転させて送信出力を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと送信出力キャリアレベルが上がります。また下方向にまわすと送信出力が下がります。



PROC/CARツマミ

アドバイス

- SSBモードの場合には、メニューモード「177 TX PWR CONTROL」の設定を、“PROC”に設定することにより、[PROC/CAR] ツマミでスピーチプロセッサのコンプレッションレベルを調整することができます。

オートアンテナチューナーの設定

[TUNE] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“TUNE”のポップアップウィンドウが開き、オートアンテナチューナーを設定することができます。

TUNER OFF: オートアンテナチューナーの機能がOFFになります。

TUNER ON: オートアンテナチューナーの機能がONになります。

TUNING: 自動的に送信状態になりチューニングがスタートします。チューニングが終了すると受信状態に戻ります。



TUNER OFF
TUNER ON
TUNING

TUNEポップアップウィンドウ

ご注意

ボイスメモリーを使用するにはオプションのボイスメモリーユニット “DVS-6” の取り付けが必要です。

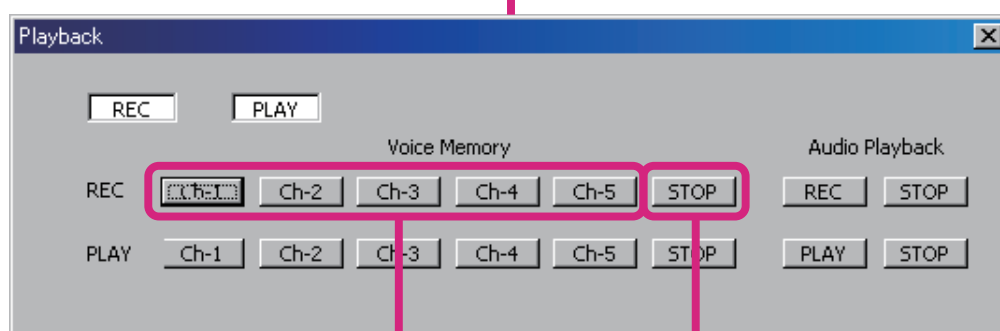
録音操作

1. FTDX1200 にマイクロホンを接続しておきます。
2. 運用モードを LSB、USB、AM または FM に設定します。
3. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。



Playbackをクリックする

Playbackポップアップウィンドウ



RECボタン(Ch-1～Ch-5)

STOPボタン

4. Voice Memory の [REC] ボタン (Ch-1 ～ Ch-5) をマウスの左ボタンでクリックすると録音を開始（REC インジケータが赤に点灯）しますので、FTDX1200 に接続されているマイクロホンに向かって音声を録音します（PTT スイッチを押す必要ありません）。1 つのチャンネルあたり最大 20 秒間録音することができます。
5. Voice Memory の REC 側 [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると録音を終了します。（または同じチャンネルの [REC] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしても停止することができます。）
6. ポップアップウィンドウ（Playback）を閉じる際は、ウィンドウの右上の“閉じる” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
または、パソコンの [ESC] キーを押します。

録音内容の確認（再生）操作

1. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし “OFF” にします。

ご注意

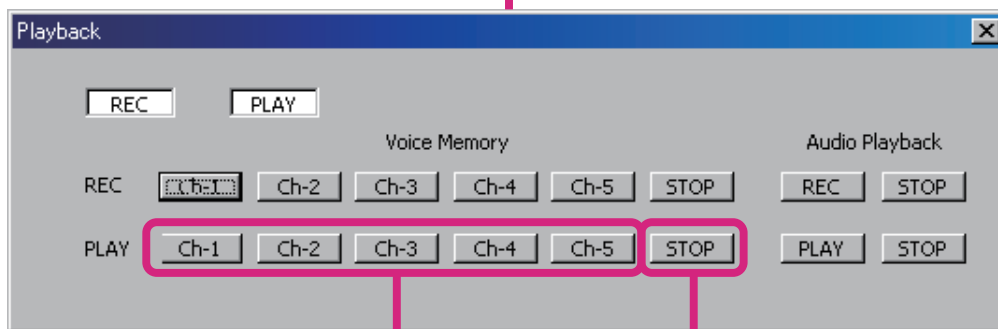
BK-IN が “ON” “のまま次の操作を行うと、FTDX1200 が自動的に送信状態になりますのでご注意ください。

2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。



Playbackをクリックする

Playbackポップアップウィンドウ



PLAYボタン(Ch-1～Ch-5)

STOPボタン

3. Voice Playback の [PLAY] ボタン (Ch-1 ～ Ch-5) をマウスの左ボタンでクリックすると再生を開始 (PLAY インジケータが緑に点灯) します。
4. 再生の途中で停止したい場合は、Voice Memory の PLAY 側 [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。（または同じチャンネルの [PLAY] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしても停止することができます。）
5. ポップアップウィンドウ（Playback）を閉じる際は、ウィンドウの右上の “閉じる” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
または、パソコンの [ESC] キーを押します。

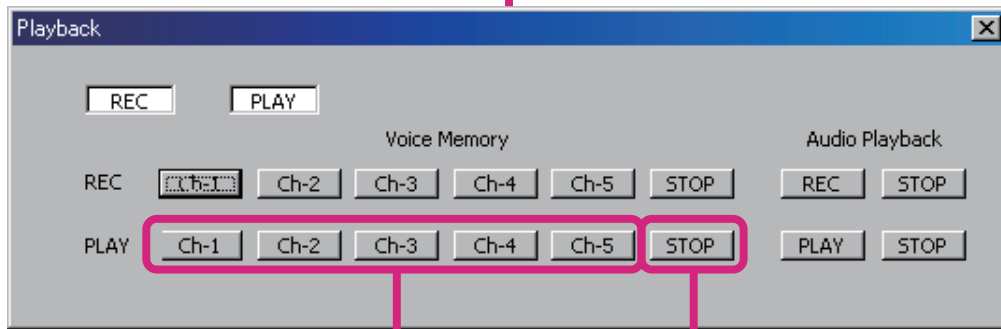
送信操作

1. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし “ON” にします。
2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。



Playbackをクリックする

Playbackポップアップウィンドウ



PLAYボタン(Ch-1～Ch-5)

STOPボタン

3. Audio Playback の [PLAY] ボタン (Ch-1 ～ Ch-5) をマウスの左ボタンでクリックすると録音した内容が送信 (PLAY インジケータが点灯) されます。
4. 送信の途中で終了したい場合は、PLAY の [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
5. ポップアップウィンドウ (Playback) の終了ウィンドウの右上の “閉じる” ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
または、パソコンの [ESC] キーを押します。
6. ポップアップウィンドウ (Playback) を閉じる際は、ウィンドウの右上の “閉じる” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
または、パソコンの [ESC] キーを押します。

録音操作

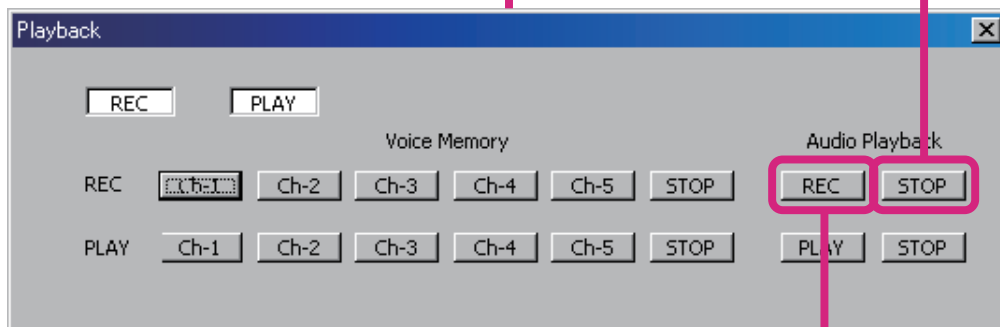
1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。



Playbackをクリックする

Playbackポップアップウィンドウ

STOPボタン



RECボタン

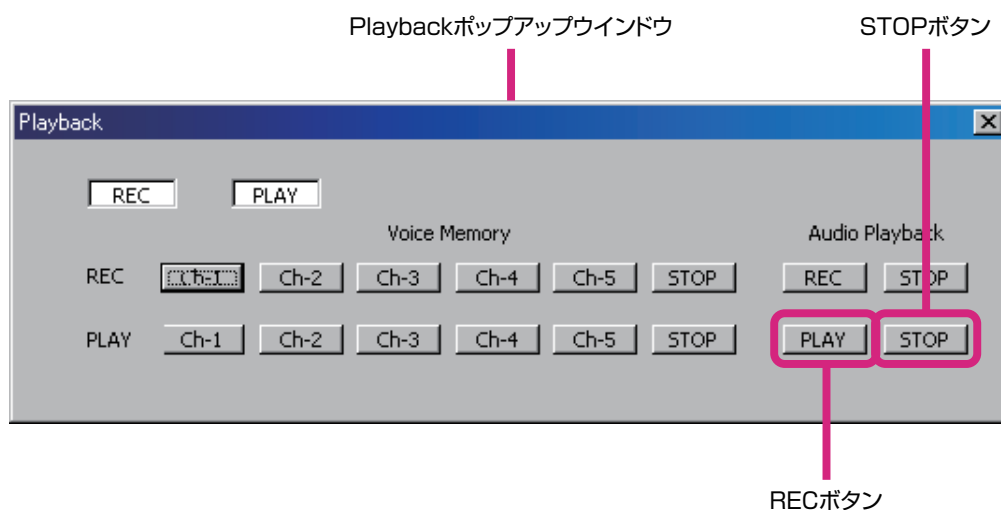
2. Audio Playback の [REC] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると受信音の録音を開始（REC インジケータが点灯）します。録音中は受信音を常時録音しています。15 秒を超える録音内容を自動的に上書きしながら連続して録音します。STOP ボタンを押すまでつねに最新の 15 秒間を録音することができます。
3. REC 側の [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると録音を終了します。
4. ポップアップウィンドウ（Playback）を閉じる際は、ウィンドウの右上の“閉じる” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
または、パソコンの [ESC] キーを押します。

再生操作

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。



Playbackをクリックする



Playbackポップアップウィンドウ

STOPボタン

RECボタン

2. Audio Playback の [PLAY] ボタンをマウスの左ボタンでクリックするとエンドレスで再生を開始（PLAY インジケータが点灯）します。
3. 再生の途中で停止したい場合は、PLAY の [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
4. ポップアップウィンドウ（Playback）を閉じる際は、ウィンドウの右上の“閉じる”ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
または、パソコンの [ESC] キーを押します。

アドバイス

- プレイバックの再生中は、受信音はミュートされます。
- FTD1200 の電源を切ると録音内容は消去されます。

モニター機能の設定

1. [MONI] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、モニター機能が“ON”になります。
LSB/USB/CW/AM/FM/RTTY/DATA モードの時に自分の送信音をモニターすることができます。
2. メニューモード「036 MONITOR LEVEL」でモニター音量の調整を行うことができます。



MONIボタン

3 ステージパラメトリックマイクイコライザー機能の調整

メニューバーの「Prmtrc」を左クリックして、表示されるプルダウンメニューの「Prmtrc」または「P-Prmtrc」（スピーチプロセッサ専用のパラメトリックマイクイコライザー）を選択すると、パラメトリックマイクイコライザーのゲインと周波数特性のグラフ画面がポップアップウィンドウで表示され、グラフ画面を見ながら送信周波数特性の設定ができます。

プルダウンメニューの「Prmtrc」を選択するとパラメトリックマイクイコライザーにより好みに合わせて、スピーチプロセッサを使用していない場合の送信音質を低域・中域・高域のそれぞれに独立して変化させることができます。

また、プルダウンメニューの「P-Prmtrc」を選択すると、スピーチプロセッサ専用のパラメトリックマイクイコライザーの送信音質を低域・中域・高域のそれぞれに独立して変化させることができます。

アドバイス

- パラメトリックマイクイコライザーの調整は、送信しながら設定を行いますので、他の交信に混信をあたえないよう、最小限の出力に下げてください。
- マイクイコライザーで好みの送信音質に調整するには時間がかかる場合がありますので、RF ダミーロードをご使用することをおすすめします。
- 送信音質の確認にはヘッドフォンを使用するとよくわかります。

1. FTDX1200 にマイクロホンを接続します。
2. [MONI] ボタンをマウスの左ボタンでクリックして、モニター機能を“ON”にします。
3. マイクイコライザーの調整を行う場合には、機能表示ディスプレイに表示されている [MIC EQ] ボタンをマウスの左ボタンでクリックして、マイクイコライザーを“ON”にしてください。

スピーチプロセッサ専用マイクイコライザーの調整を行う場合には、マイクイコライザーを“ON”にして、さらに機能表示ディスプレイに表示されている [PROC] ボタンをマウスの左ボタンでクリックして、スピーチプロセッサを“ON”にしてください。

4. 上記、手順 3. で MIC EQ だけを“ON”にした場合はメニューバーの「Prmtrc」から、「Prmtrc」を選択します。また MIC EQ と PROC の両方を“ON”にした場合はパラメトリックマイクイコライザー専用のマイクイコライザー「P-Prmtrc」を選択します。選択後「Prmtrc」または「P-Prmtrc」のグラフ画面が現れます。

5. グラフ画面の下記の 3 つのステージの FREQ（中心周波数）、LEVEL（ゲイン）、BWTH（Q 設定）を設定します。

- ・PRMTRC EQ1 または P-PRMTRC EQ1（低域）
- ・PRMTRC EQ2 または P-PRMTRC EQ2（中域）
- ・PRMTRC EQ3 または P-PRMTRC EQ3（高域）

6. 設定を変えるたびにマイクロホンの PTT スイッチを押して送信しながら音質を確認します。



MONIボタン



PROCインジケータ

MIC EQインジケータ

PROCボタン

MIC EQボタン



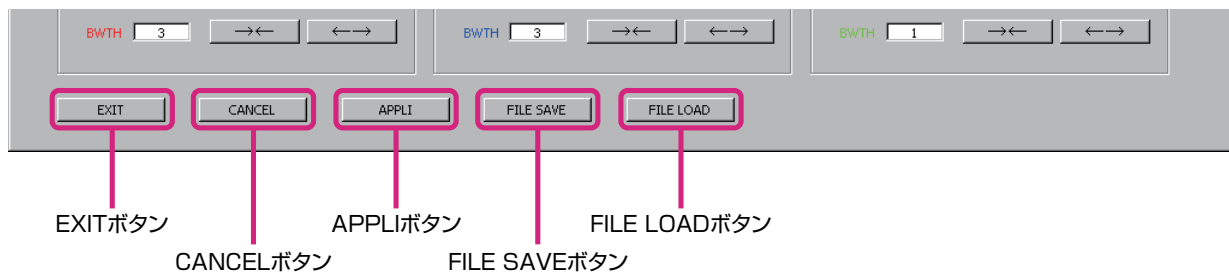
PrmtrcまたはP-Prmtrcをクリックする

アドバイス

- 好みの音質になるまで、低域、中域、高域のそれぞれの音域で上記の調整を繰り返します。
 - モニター音の音量調整は、メニューモード「035 MONITOR LEVEL」で行います。
 - スピーチプロセッサ専用のマイクイコライザーを調節する場合は、[PROC] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてスピーチプロセッサを“ON”にしてから行ってください。
7. グラフ画面の [APPLI] ボタンをマウスの左ボタンでクリックして FTDX1200 本体の設定状態として適用します。
8. グラフ画面の [EXIT] ボタンまたは、パソコンの [ESC] キーまたは、ポップアップウィンドウの“閉じる” ボタンを押すと現在の設定状態が FTDX1200 本体の設定状態として適用されグラフ画面が閉じます。

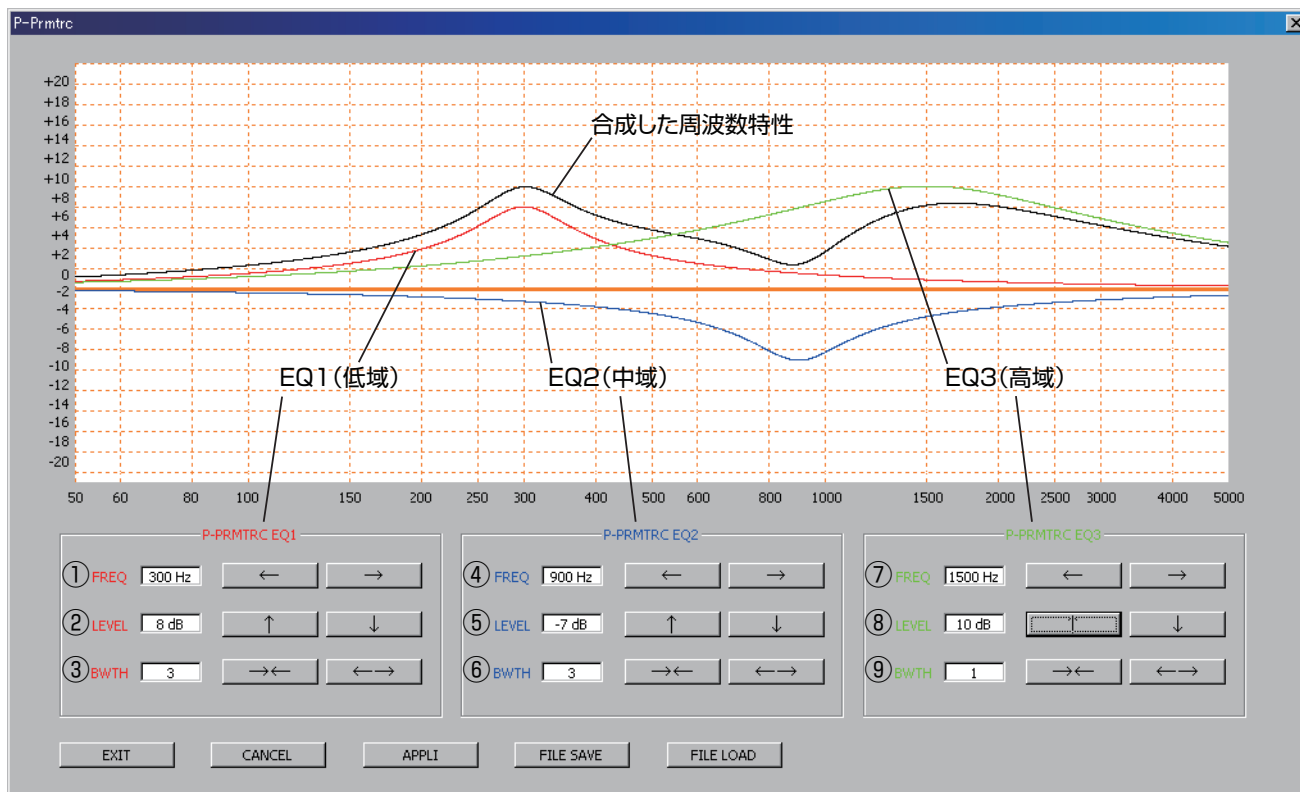
アドバイス

- [CANCEL] ボタンを押すと現在の設定状態を保存せず、一つ前の設定状態に戻ります。
- [FILE SAVE] ボタンを押すと現在の設定状態をユーザー指定のフォルダーにファイル（拡張子“pef”）を保存することができます。自由なファイル名で複数のファイルを保存することができます。
- [FILE LOAD] ボタンを押すとユーザーが選択したファイル（拡張子 pef）の設定状態をグラフ画面に呼び出し、FTDX1200 本体の設定状態として反映することができます。
- FTDX1200 との通信を行っていないとき（COM ボタンのインジケータが消灯、COM オフの状態）でも PCC-1200 のパラメトリックマイクイコライザー機能の操作が行えますので、マイクイコライザーの設定値による送信周波数特性をグラフ上で確認することができます。



Prmtc/P-Prmtc ポップアップウインドウ

低域・中域・高域に独立して中心周波数、ゲイン、Q 設定を入力することにより、3 ステージパラメトリックマイクイコライザーのグラフを表示することができます。グラフ内の赤線は低域、青線は中域、緑線は高域のそれぞれの周波数特性を示します。黒線は低域・中域・高域の合成した周波数特性を示します。



PRMTRC/P-PRMTRC EQ1 (低域)

① FREQ (中心周波数)

FREQ の [←]/[→] ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると低音の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：OFF、100～700 (Hz)
(100Hz ステップ)

② LEVEL

LEVEL の [↑]/[↓] ボタンを押すと低域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：-20～0～+10 (dB)

③ BWTH (Q 設定)

BWTH の [→←]/[←→] ボタンを押すと低域の周波数において、変化幅 (Q) を設定できます。[→←]/[←→] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：1～10

PRMTRC/P-PRMTRC EQ2 (中域)

④ FREQ (中心周波数)

FREQ の [←]/[→] ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると中域の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：OFF、700～1500 (Hz)
(100Hz ステップ)

⑤ LEVEL

LEVEL の [↑]/[↓] ボタンを押すと中域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：-20～0～+10 (dB)

⑥ BWTH (Q 設定)

BWTH の [→←]/[←→] ボタンを押すと中域の周波数において、変化幅 (Q) を設定できます。[→←]/[←→] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：1～10

PRMTRC/P-PRMTRC EQ3(高域)

⑦ FREQ (中心周波数)

FREQ の [←]/[→] ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると高域の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：OFF、1500 ～ 3200 (Hz)
(100Hz ステップ)

⑧ LEVEL

LEVEL の [↑]/[↓] ボタンを押すと高域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓] ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲：-20 ～ 0 ～ +10 (dB)

⑨ BWTH (Q 設定)

BWTH の [→←]/[↔] ボタンを押すと高域の周波数において、変化幅 (Q) を設定できます。

[→←]/[↔] ボタンの押し続けでも動作します。
選択範囲：1 ～ 10

エレクトロニックキーヤー設定

1. 機能表示ディスプレイに表示されている [KEYER] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし、エレクトロニックキーヤーを“ON”にします。

2. [MIC/SPEED] ツマミ (内軸) をマウスの左ボタンでクリックし、エレクトロニックキーヤーのキーイング速度を調節します。

調節の方法は、下記の 2 種類があります。

- ☐ [MIC/SPEED] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしたままにするとキーイング速度が遅くなります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにするとキーイング速度が速くなります。

- ☐ [MIC/SPEED] ツマミの上でマウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすとキーイング速度が速くなります。また下方向にまわすとキーイング速度が遅くなります。

3. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ブレイクイン操作 (キーイング操作により自動的に送信状態になる) になります。

KEYERインジケータ



KEYERボタン



MIC/SPEEDツマミ

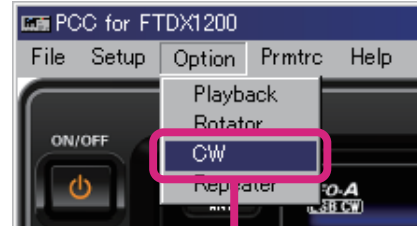


BK-INボタン

TEXT メモリーの書き込み

コンテストメモリーキーヤーの“TEXT メモリー”（TEXT Ch-1 ～ TEXT Ch-5）に、パソコンのキーボードからテキストの書き込み（半角大文字、最大 50 文字）を行うことができます。

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、“CW” のポップアップウィンドウが表示されます。

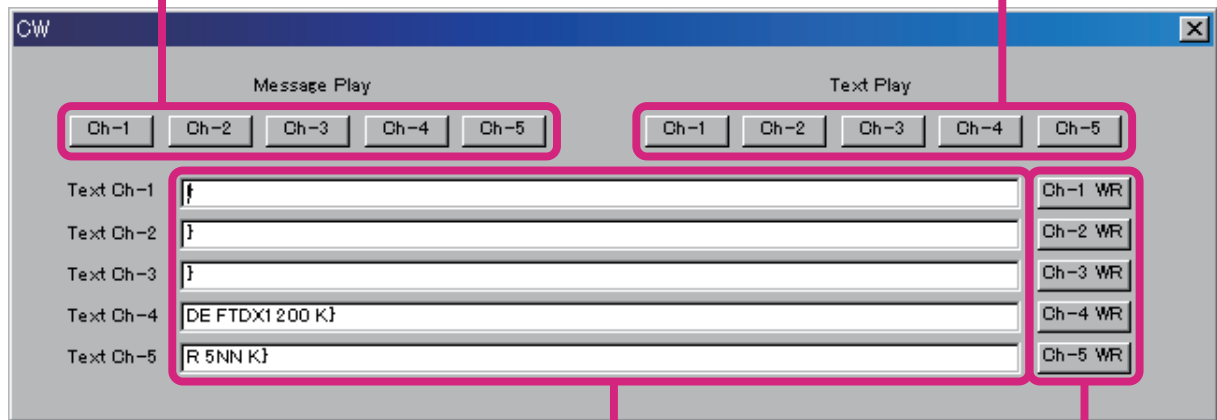


CWをクリックする

MessageメモリーのPlayボタン

※ PCC-1200では、Messageメモリーを書き込むことはできません。

TextメモリーのPlayボタン



Textメモリーボックス

TextメモリーのWRボタン

2. 書き込みたい Text メモリーボックス（Text Ch-1 ～ Text Ch-5）に、パソコンのキーボードからテキスト（半角大文字、最大 50 文字）を入力します。
3. テキストを入力したメモリーボックスと同じ番号の WR ボタン（Ch-1 WR ～ Ch-5 WR）をマウスの左ボタンでクリックしてテキストを保存します。
4. ポップアップウィンドウ（CW）を閉じる際は、ウィンドウの右上の“閉じる” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

または、パソコンの [ESC] キーを押します。

アドバイス

- “MESSAGE メモリー” は PCC-1200 から書き込みすることはできません。
なお、あらかじめ FTDx1200 本体でメモリーを書き込みしておくことで、PCC-1200 の “Message Play” ボタンを押してメモリー内容の確認、CW 符号の送出手を行うことができます。

TEXT メモリーの内容を確認

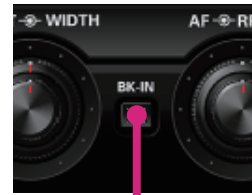
1. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし “OFF” にします。

ご注意

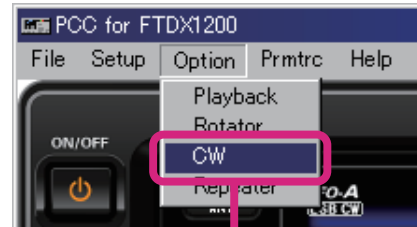
BK-IN が “ON” のまま次の操作を行うと、FTDX1200 が自動的に送信状態になりますのでご注意ください。

2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、“CW” のポップアップウィンドウが表示されます。
3. PCC-1200 の “Text Play” ボタンからメモリーした [Ch-1] ボタン～ [Ch-5] ボタンを押すと、“TEXT メモリー” の内容を確認することができます。
4. ポップアップウィンドウ (CW) を閉じる際は、ウィンドウの右上の “閉じる” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

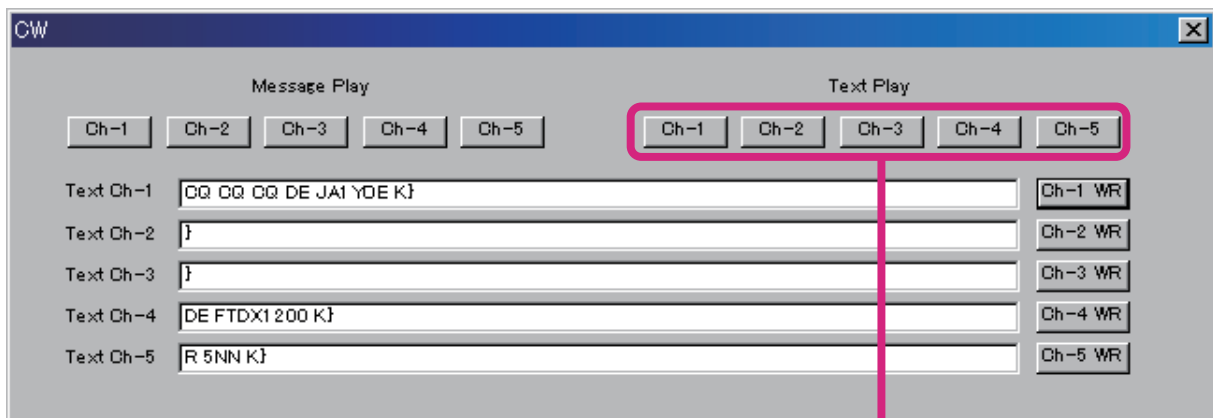
または、パソコンの [ESC] キーを押します。



BK-INボタン



CWをクリックする



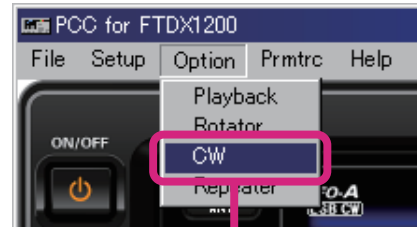
TextメモリーのPlayボタン

TEXT メモリーの送付

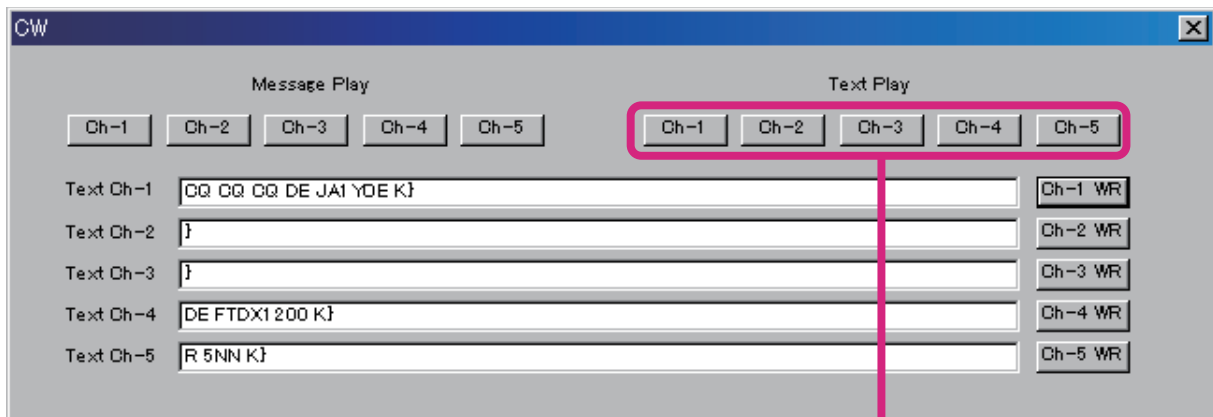
1. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし “ON” にします。
2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、“CW” のポップアップウィンドウが表示されます。
3. PCC-1200 の “Text Play” ボタンからメモリーした [Ch-1] ボタン～ [Ch-5] ボタンを押すと、CW を送出することができます。
4. ポップアップウィンドウ（CW）を閉じる際は、ウィンドウの右上の “閉じる” ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
または、パソコンの [ESC] キーを押します。



BK-INボタン



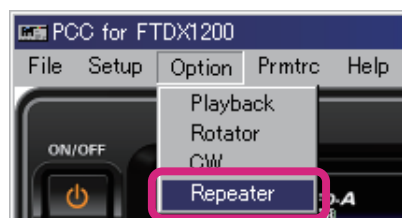
CWをクリックする



TextメモリーのPlayボタン

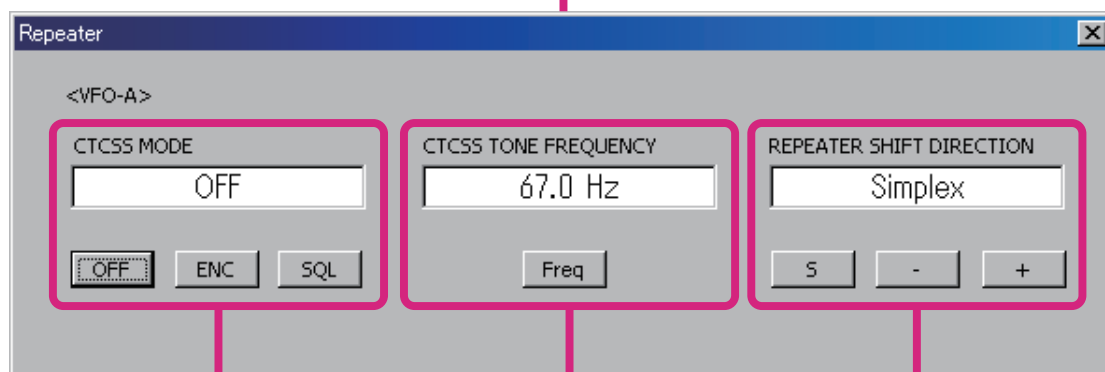
レピータ運用 (FM モード)

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックして、次に「Repeater」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Repeater」のポップアップウィンドウが表示されます。



Repeaterをクリックする

Repeaterポップアップウィンドウ



CTCSSモード設定

トーン周波数設定

レピータシフト設定

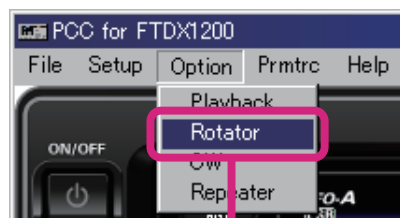
2. CTCSS モードを設定します。
[ENC] ボタン (CTCSS トーンエンコーダー) または [SQL] ボタン (トーンスケルチ) をマウスの左ボタンでクリックして選択します。
[OFF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると CTCSS モードは OFF になります
3. 次に、CTCSS トーン周波数を選択します。
[Freq] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ポップアップウィンドウが表示され、CTCSS トーン周波数が一覧で表示されます。現在の設定値は赤字で表示されます。
4. 希望の CTCSS トーン周波数をマウスの左ボタンでクリックし、[OK] ボタンをクリックすると CTCSS トーン周波数が設定されます。
5. 次にレピータシフトを選択します。
Simplex の場合は [S] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
マイナスシフトの場合は [-] ボタン、プラスシフトの場合は [+] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
6. 以上で設定は終了です。ウィンドウ右上の“閉じる”ボタンをクリックします。またはパソコンの [ESC] キーを押してポップアップウィンドウを閉じます。

アドバイス

- Repeater 運用の動作は FM モードのみで有効になります。

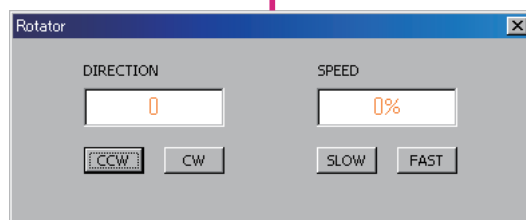
ローテーターのコントロール

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Rotator」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Rotator」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. アンテナを反時計方向（左）にまわしたいときは [CCW] ボタンを、また時計方向（右）にまわしたいときは [CW] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。DIRECTION のウィンドウには角度（単位は度）が表示されます。
3. アンテナの回転速度を変更したい場合、低速にするには [SLOW] ボタンを、また高速にするには [FAST] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。SPEED のウィンドウには回転速度(単位はパーセント)が表示されます。
4. 終了する場合は、ウィンドウ右上の“閉じる” ボタンをクリックします。またはパソコンの [ESC] キーを押してポップアップウィンドウを閉じます。



Rotatorをクリックする

Rotatorポップアップウィンドウ



QMB メモリー

- [STO] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると VFO-A の周波数と設定情報が QMB にメモリーされます。
- [RCL] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると QMB にメモリーされた VFO-A の周波数と設定情報を呼び出します。
- QMB メモリーは5チャンネルまで保存されます。[STO] ボタンを押して新しく保存すると、5チャンネル以上の QMB メモリーは古いメモリーから順番に消去されます。



各種ボタンとスイッチの操作

機能表示ディスプレイの [METER] ボタン

機能表示ディスプレイに表示されている [METER] ボタンをマウスの左ボタンでクリックするたびに、S メーターの下段に表示するメーターを変更することができます。

PO (送信電力)、SWR、ID (ファイナルトランジスターのドレイン電流)、VDD、COMP (スピーチプロセッサのコンプレッションレベル)、ALC のいずれかから選択することができます。



METERボタン

SPOTボタン

機能表示ディスプレイの [SPOT] ボタン

機能表示ディスプレイに表示されている [SPOT] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、サイドトーンが鳴ります。再度 [SPOT] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、サイドトーン信号は停止します。

[A ↔ B] ボタン

[A ↔ B] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックすると、VFO-A で設定した周波数などのデータと VFO-B で設定した周波数などのデータを入れ替えることができます。

[A → B] ボタン

[A → B] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックすると、VFO-A で設定した周波数などのデータを VFO-B にコピーすることができます。

A ↔ Bボタン

A → Bボタン

TXWボタン



[TXW] ボタン

スプリット運用を行っているとき、[TXW] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックしている間だけ、送信周波数を一時的に受信することができます。

[SPLIT] ボタン

[SPLIT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“SPLIT”のポップアップウィンドウが開き、スプリットを設定することができます。

SPLIT: 押すたびに SPLIT と SIMPLEX が切り替わります。

QUICK SPLIT: クイックスプリット機能が動作します。

(自動的に VFO-B の周波数が、VFO-A の周波数より 5kHz 高い周波数に設定され、SPLIT になります。SPLIT 中に操作した場合は VFO-B の周波数がさらに 5kHz 高い周波数に設定されます。)

SPLITボタン



[V/M] ボタン

[V/M] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックするたびに、VFO に設定してあるデータとメモリーチャンネルにメモリーされているデータを交互に呼び出すことができます。

[M → A] ボタン

[M → A] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックすると、メモリーチャンネルに書き込まれている周波数などのデータを VFO-A にコピーすることができます。

[A → M] ボタン

[A → M] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックすると、VFO-A で設定した周波数などのデータをメモリーチャンネルに書き込むことができます。

メインダイヤルの [FAST] ボタン

[FAST] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックすると、LED インジケータ表示部に “FAST” が表示され、メインダイヤルの周波数変化量が 10 倍になります。

メニューモードの「151 CW DIAL STEP」～「155 SSB DIAL STEP」でモードごとに 1Hz または 5Hz に設定した場合には 100Hz になります。

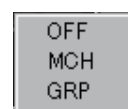
[MCH/GRP] ボタン

1. [MCH/GRP] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックすると、ポップアップウィンドウが表示されます。
2. “MCH” を選択し、次に [VFO-B/CLAR] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、メモリーチャンネル (MCH) を選択することができます。
3. ポップアップウィンドウで “GRP” を選択した場合は、[VFO-B/CLAR] ツマミの上でマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、メモリーチャンネルグループ (GRP) を選択することができます。

なお、メモリーチャンネルグループの選択は、メニューモードの「042 MEM GROUP」が “ENABLE” の時だけ有効です。“DISABLE” の時はメモリーチャンネルを選択することができます。



MCH/GRPツマミ



MCH/GRPポップアップウィンドウ

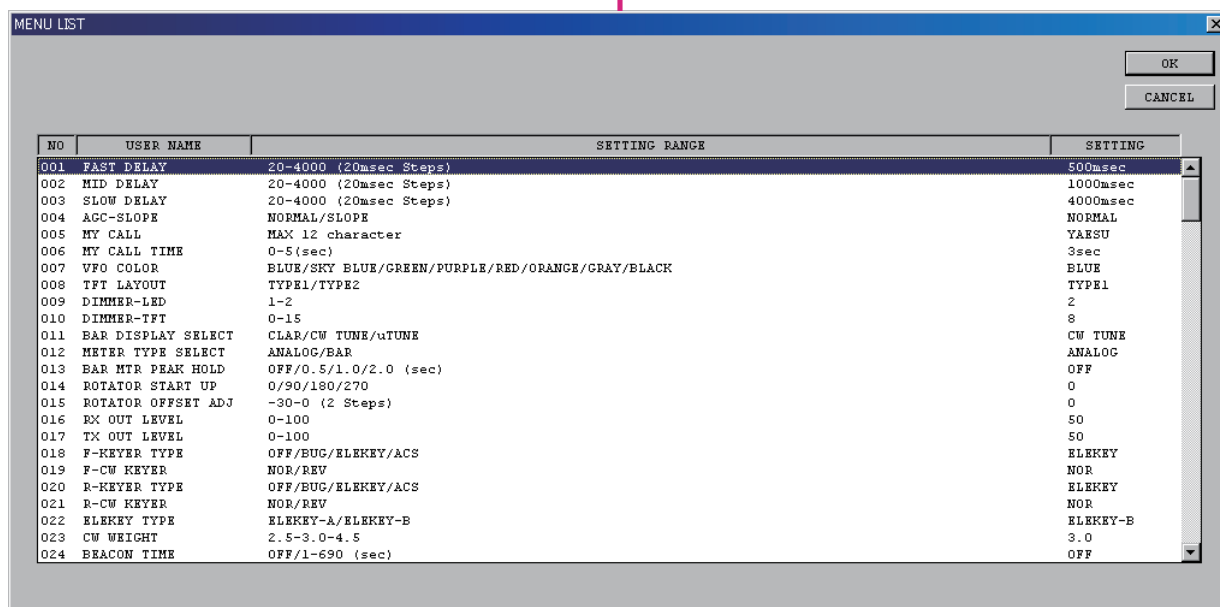
メニューモードの設定

1. [MENU] ボタンの上でマウスの左ボタンをクリックして“MENU LIST”画面を開きます。
2. マウスのホイールを回転しメニューを選択し、マウスの左ボタンをダブルクリックすると“MENU LIST SETTING”のポップアップウィンドウが開きます。
3. 変更したい設定値にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンを押して選択します。
[OK] ボタンをクリックしてポップアップウィンドウを閉じます。
[CANCEL] ボタンをクリックすると、設定値を変更せずに“MENU LIST SETTING”画面を閉じます。
4. “MENU LIST”の[OK] ボタンをクリックすると内容を保存して“MENU LIST”画面が閉じます。
[CANCEL] ボタンをクリックすると、メニュー内容を変更せずに“MENU LIST”画面が閉じます。

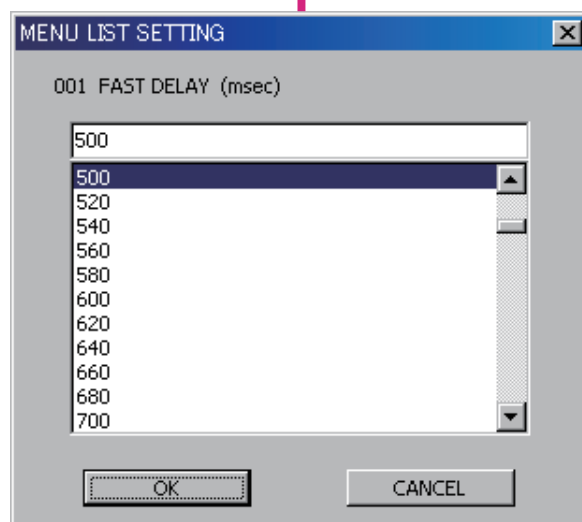
MENUボタン



MENU LISTポップアップウィンドウ



MENU LIST SETTINGポップアップウィンドウ



CAT コマンドによる設定

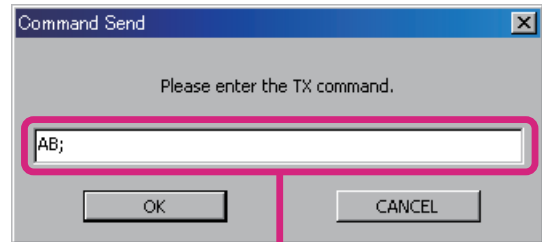
アドバイス

CAT コマンドについては当社ホームページから“CAT オペレーションマニュアル”をダウンロードして参照してください。

1. メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Command Send」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Command Send」のポップアップウィンドウが表示されます。
 2. ポップアップウィンドウのボックスにパソコンのキーボードで CAT コマンドを入力し（例えば A → B の場合は、AB; と入力します）、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックするか、キーボードの Enter キーを押すとコマンドが設定されポップアップウィンドウを閉じられます。
- [CANCEL] ボタンをクリックするとコマンドは入力されずに終了して、ポップアップウィンドウは閉じられます。



Command Sendをクリックする



CATコマンド入力部

ファンクションキーの使い方

あらかじめキーボードショートカットエディタ (KSE4PCC1.exe) で、各ファンクションキーに CAT Command を登録しておくと、パソコンのファンクションキーを押すだけで CAT Command を送出することができます。

登録方法は、次ページの「キーボードショートカットエディタの使い方」を参照してください。

キーボードショートカットエディタ画面を閉じた状態でパソコンのファンクションキーを押しても、CAT Command を送出することができます。

キーボードショートカットエディタ

キーボードショートカットエディタの使い方

あらかじめファンクションキーに CAT コマンドを登録しておきパソコンのキーボードのファンクションキーを押すことにより FTDX1200 を操作することができます。

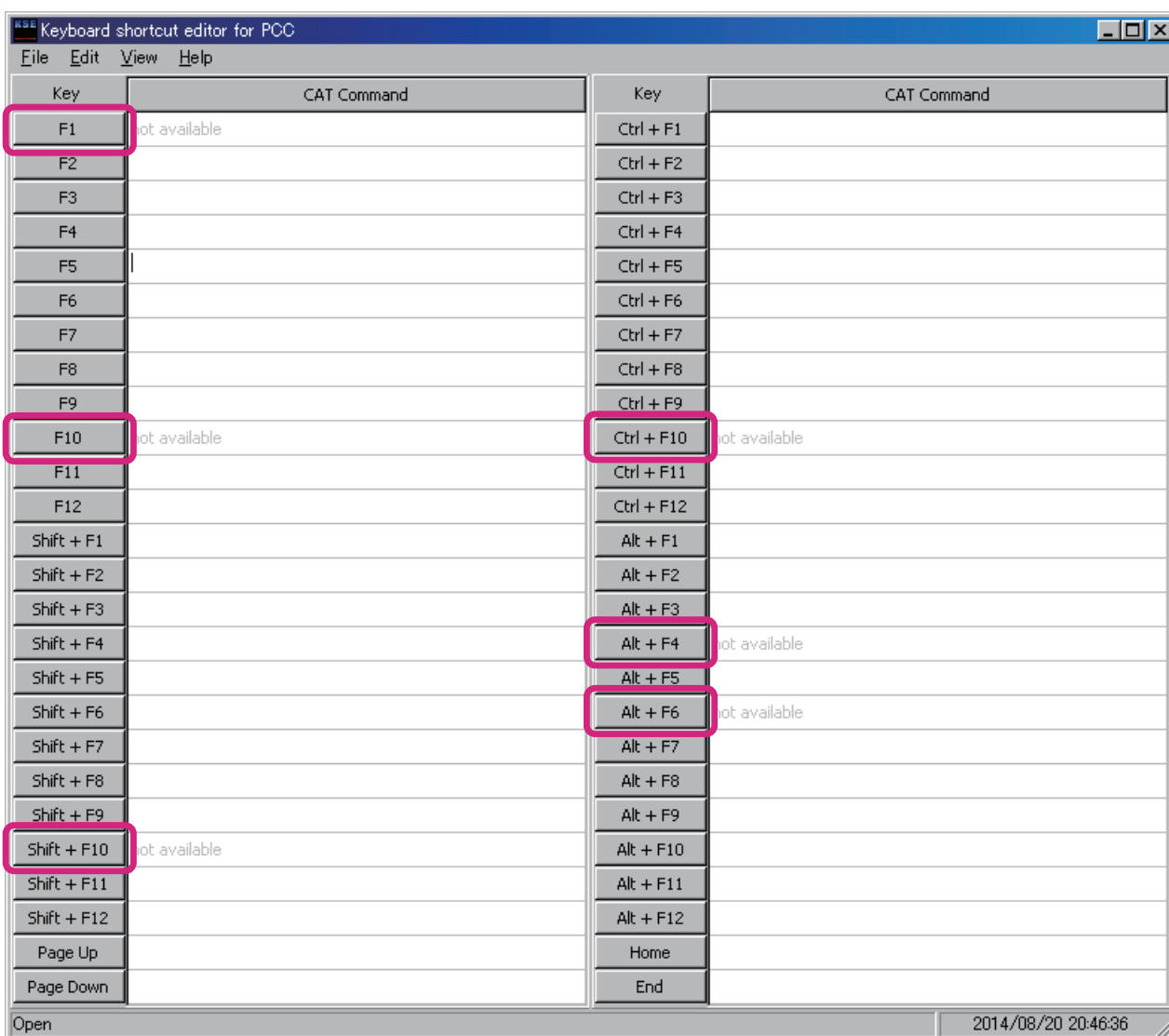
キーボードショートカットエディタの起動

PCC-1200 に付属のキーボードショートカットエディタ “KSE4PCC1.exe” をダブルクリックすると、下記のキーボードショートカットエディタの画面が開きます。

ご注意

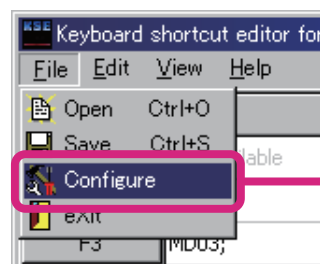
下記画面の□印のファンクションキーは、Windows があらかじめ使用しているため、キーボードショートカットエディタや PCC-1200 では使用することができません。

これら以外のファンクションキーにコマンドを設定してください。

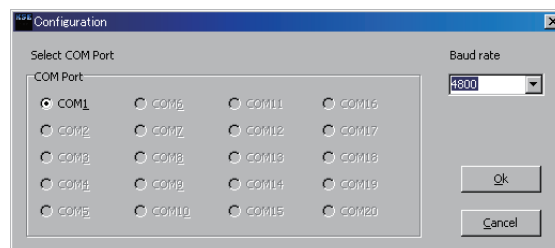


“COM Port”、“Baud rate” の設定

1. メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Configure」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Configuration」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. COM Port をマウスの左ボタンでクリックします。
Baud rate（通信速度）の数字を選択し [OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、Baud rate が設定されポップアップウィンドウが閉じます。
 - ❑ 初期設定は 4800bps に設定してありますが、マウスかキーボードの [↑]、[↓] で 9600bps/19200bps/38400bps に設定することができます。
 - ❑ キーボードショートカットエディタは、できるだけ速い通信速度に設定してお使いいただくことをお勧めします。速い通信速度で動作が不安定な場合には通信速度を下げることで改善する場合があります。
 - ❑ 通信速度を変更した場合は、FTDX1200 のメニューモード「039 CAT RATE」も同じ通信速度に変更してください。
 - ❑ [CANCEL] ボタンをクリックすると COM 番号、Baud rate は変更されずに終了してポップアップウィンドウが閉じます。
3. キーボードショートカットエディタ画面を一度閉じ、画面を再起動してください。



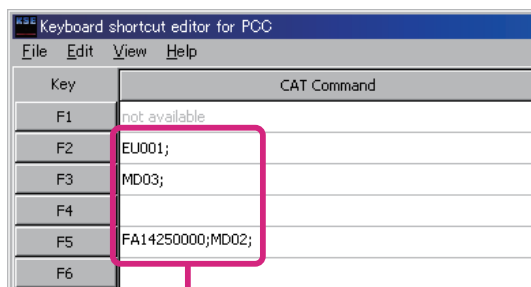
Configureをクリックする



Configurationポップアップウィンドウ

ファンクションキーに CAT コマンドを設定

登録したいファンクションキーに CAT コマンドを入力します。コマンドを連結して入力することも可能です。



CATコマンドを入力

CAT コマンドに Tag (タグ) を入力して表示

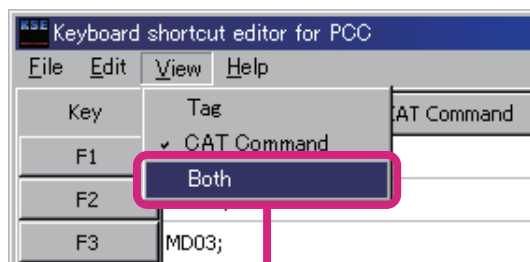
CAT コマンドに分かりやすくタグを付けることができます。

Tag(タグ)を入力して Tag と CAT コマンドを同時に表示する

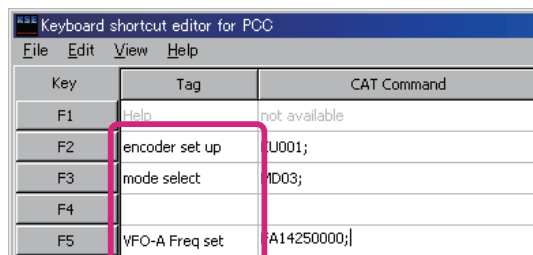
1. メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Both」をマウスの左ボタンでクリックします。
2. タグを付けたい CAT コマンドを選択します。
3. CAT コマンドの左側のセルをマウスの左ボタンでダブルクリックし、キーボードでタグを入力します。

アドバイス

タグは、全角 / 半角 16 文字入力可能です。



Bothをクリックする



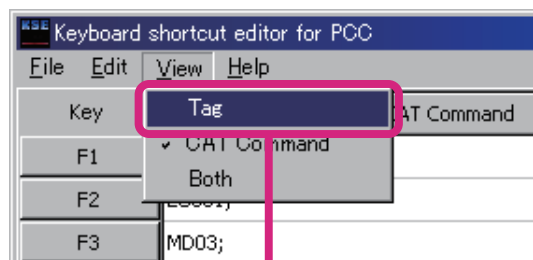
タグを入力

Tag を入力して Tag のみ表示する

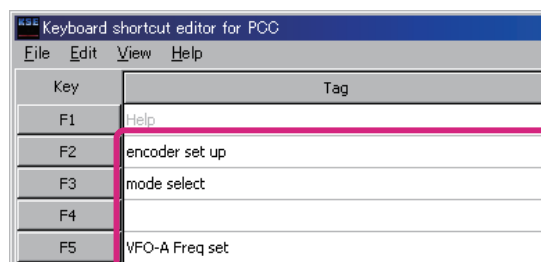
1. メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Tag」をマウスの左ボタンでクリックします。
2. タグを付けたい CAT コマンドを選択します。
3. セルをマウスの左ボタンでダブルクリックし、キーボードでタグを入力します。

アドバイス

タグは、全角 / 半角 16 文字入力可能です。



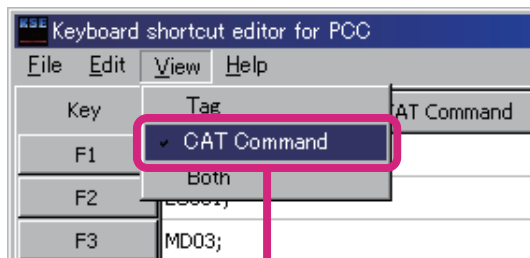
Tagをクリックする



タグを入力

CAT Command だけを表示する

メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CAT Command」をマウスの左ボタンでクリックします。



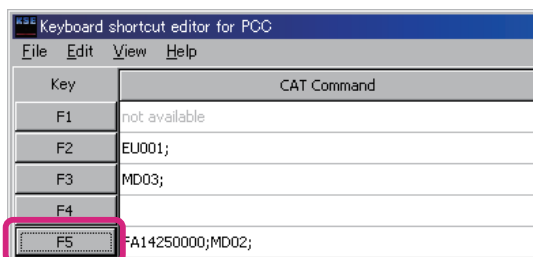
CAT Commandをクリックする

ファンクションキーをクリックして CAT コマンドを送出

登録したファンクションキーをマウスの左ボタンでクリックするか、パソコンのファンクションキーを押すと、CAT コマンドを送出することができます。

アドバイス

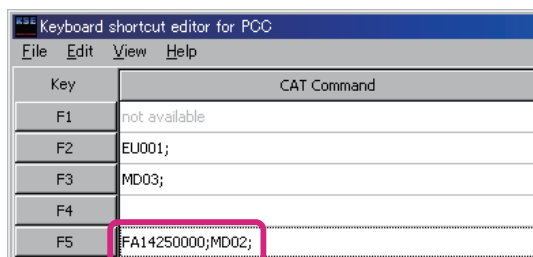
画面左下に“Open”が表示されているときは送出できますが、“Close”が表示されているときは送出できません。ケーブルの接続状態や COM Port、Baud rate の確認をしてください。



希望のファンクションキーを押す

コマンドをコピーして貼り付ける

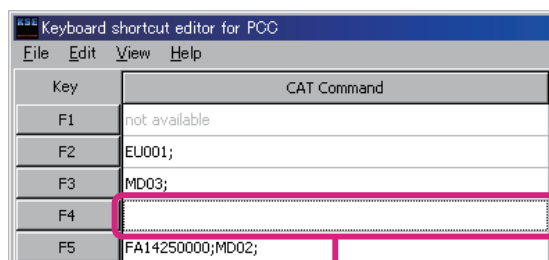
1. コピーしたいコマンドをマウスの左ボタンでクリックします。
2. メニューバーの「Edit」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Copy」をマウスの左ボタンでクリックします。
3. コピー先のファンクションキーのコマンド欄をマウスの左ボタンでクリックします。
4. メニューバーの「Edit」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Paste」をマウスの左ボタンでクリックします。



コピーしたいCATコマンドをクリックする



Copyをクリックする



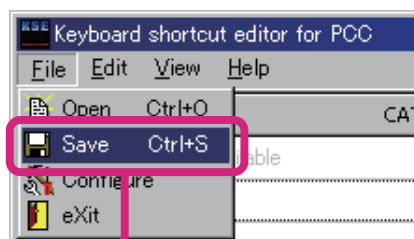
コピー先のセルをクリックする



Pasteをクリックする

ファンクションキーに設定した CAT コマンドを保存

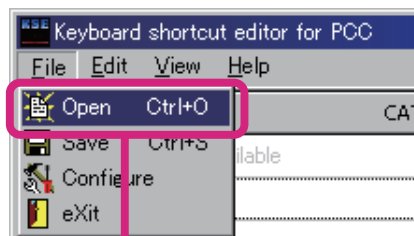
メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Save」をマウスの左ボタンでクリックします。



Saveをクリックする

保存したデータを読み出す

メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Open」をマウスの左ボタンでクリックすると、以前保存した画面が表示されます。

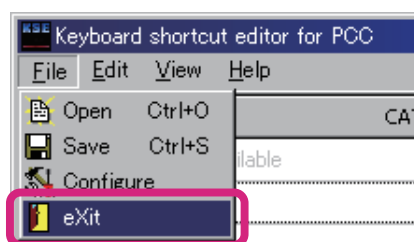
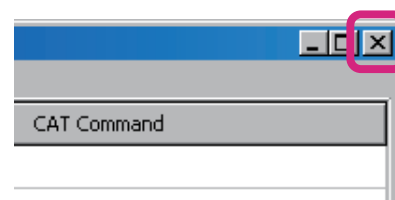


Openをクリックする

キーボードショートカットエディタの終了

キーボードショートカットエディタ画面を閉じるには、下記の2種類の方法で行うことができます。

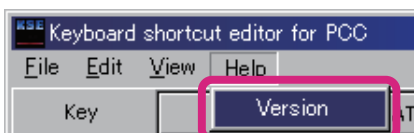
- キーボードショートカットエディタ画面の、ウィンドウ右上の“閉じる”ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
- メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Exit」をマウスの左ボタンでクリックします。



eXitをクリックする

バージョンの確認

1. メニューバーの「Help」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Version」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Version information of PCC for KSE4PCC」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. バージョンを確認後、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ポップアップウィンドウが閉じます。



Versionをクリックする





八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

©2014 八重洲無線株式会社
無断転載・複写を禁ず

1410-B0